

今年は梅雨明けが早かったというか、ほとんど梅雨らしい天候が続かなかったせいか、セミの羽化のようすがおかしいですね。いつもならとくに鳴いているはずのニイニイゼミやアブラゼミがとても少なく、8月に入ってから声がきこえるツクツクボウシやミンミンゼミがもう鳴いています。でも、そんな年もあります。いつもの年となにがちがってなにが同じなのか、観察、記録しながら考えていくと楽しいですよ！

## 今年はアオバハゴロモが多い？

今年はクズやセンニンソウ、ツタなど、いろいろなつる植物の茎に、白い綿のようなものが目立ちます。春のこの観察会でもご紹介したクワキジラミに近いなかま、アオバハゴロモの幼虫です。昆虫の大きな分類では、セミやアメンボ、ヨコバイなどと同じ、カメムシのなかまの昆虫です。幼虫はカムフラージュのためでしょう、白いロウ物質をまとっています。植物の汁を吸って生活しているので、一日中ひたすらこうして茎の上にとまって過ごしています。よく見ないと虫であることすらわかりません。でも、ロウ物質を落として見ると、やっぱりなんとなくセミに似ていますね。今年はとくにこのアオバハゴロモが多いように感じます。



白いロウ物質をまとったアオバハゴロモの幼虫



白いロウ物質がはずれたアオバハゴロモの幼虫



アオバハゴロモの成虫

## いつもと同じ、アキノタムラソウ

春先の植物はちょっと花期が早い傾向にありましたが、今はもうほとんど例年通りに花が咲いています。樹林地内では、7月はじめからアキノタムラソウが美しい花を咲かせています。え？アキノタムラソウなんて名前だから、やっぱり早すぎないかって？いえいえ、この花の名は、解釈するなら「秋まで咲いているタムラソウ」ということになります。日当たりの良い場所では5月下旬から咲いています。花期の長い花ですね。ちなみに、ナツノタムラソウという花も山で見られますが、こちらは夏しか咲きません。



次回のお知らせ

ミニ観察会：8月24日(土)12時から  
新聞 No.29 も同時に発行します。